



Vol.145 **海外ワーカーキングガール事情**  
**歯科衛生士として3人の母として**  
**自然豊かな国での生活を満喫中！**



ニュージーランド在住  
 歯科衛生士、オーラルヘルスセラピスト  
 一葉

マオリ文化が息づく国

ニュージーランドは、北島、南島の2つの主要な島と周辺の小さな島々で構成される島国で、面積は日本とほぼ同じ。人口400万人と世界で最も人口密度の低い国のひとつです。

広大な山脈、蒸気の上がる火山、どこまでも続く海岸線、内陸深くまで入り込むフィヨルドや緑深い原生林——ニュージーランドを代表する美しい地形です。大都市でも、1時間ほど車を走らせれば簡単に大自然を味わうことができ、さまざまな動植物に出会う



▲自然豊かな公園が沢山

ことも可能です。

Aotearoa (アオテアロア) はマオリ語でニュージーランドのことで、『白く長くたなびく地』という意味です。その意味の通り、雲の動きは常に変わり、1日で四季を感じる日もあるほど。

ニュージーランドには原子力発電所がなく、再生可能エネルギー(自然エネルギー)から約80%の電力を得ている国で、2025年までに再生可能エネルギーの割合を90%にする目標も掲げています。再生可能エネルギーとは、おもに、太陽光、風力、波力、地熱などをあげることができ、とにかく自然の摂理を深く意識している国です。

マオリは、ニュージーランドの「タンガタ・フエヌア」(先住民)のこと。

1000年以上昔、ポリネシアにあるという伝説の地ハワイキからニュージーランドへやってきました。全人口の約14%を占めていて、マオリ言語・文化はニュージーランド文化の根幹をなしています。彫刻織物、タトゥーといったマオリのビジュアルアートも永く受け継がれてきています。全国の博物館や文化施設では、貴重な装飾品や伝統的な武器を見ることができます。

ニュージーランドの人気のスポーツは、何と言ってもラグビー！ オールブラックスは世界的にもトップチームです。試合前に行なわれる伝統の舞『HAKA（ハカ）』は、一度はテレビでご覧になったことがあるかもしれませんが、マオリ文化の特有のものです。鼻と鼻をくっつけてする挨拶 HONGI（ホンギ）や、ニュージーランド国家の一番はマオリ語で歌うなど、マオリ語の継承にも力を入れていて、今でも国全体がマオリ文化を



▲カウリの木、樹齢300年。家族との週末

のお仕事をされるようになります。そこで出会ったお仕事が、『歯科助手』でした。未経験者の私は開院したばかりのオープンングスタッフとして雇われたこともあり、一からしっかり教えていただき、

尊重し、守り続けています。

### 慣れ始めた頃に起きた突然の出来事

外国に強く興味を持つようになったのは、高校1年生の時にアメリカへホームステイをしたことがきっかけです。それ以降、いつか私も海外に住みたい！と思うようになりました。大学卒業後は、地元の北見市で英会話教室に就職。そこでニュージーランド人の主人と出会い、結婚することになりました。

結婚後、主人が独立して英会話教室を立ち上げたこともあり、勤務していた英会話教室を退社して他

クリニック全体の流れを勉強することができました。大変なこともありましたが、すごく楽しく仕事をしていたのを覚えています。

その後、やはり海外生活に対する思いは強く、2002年にオーストラリアのシドニーへ移住。ニュージーランド人の主人は、日本に来る前はオーストラリアに住んでいたのですが、主人の家族もいるシドニーに住むことにしたのです。

移住の理由は、海外でのんびり子育てをしたいというのが一番。そして自分自身、英語の環境で生活し、仕事をしてみたいという思いからでした。

現地での求職中、よく募集要項で目にしたのが、『Great Communication skill』、『Great Written/Speaking English』等でした。そのため私は語学学校に通うことに。日本で英語ばかり勉強し、英語も教えていた経験もあるのに、現地では思うように意思疎通ができないことを経験していたからです。語学学校がひと段落した後、日系の会社や日本食レストランで働きました。



▲オタゴ大学歯学部で働いている時にお世話になった先輩たちと

少しずつシドニーでの生活にも慣れ、友達も増え、海外での自分にも少しずつ自信が持て始めた頃……。何と主人が不当解雇にあいました。徐々に築いていた土台が一気に崩れ去り、主人も私も人間不信になったり、暗い気持ちの日々を送っていました。

### 主人と私の再スタート

その時受けた心の傷は深く、言葉では言い表せない程悔しい思いをした主人。ですが、これをきっかけに心機一転、弁護士になることを決意、ニュージーランドのオタゴ国立大学へ入学することにしました。2004年のことです。

ニュージーランドの南島南東に位置するダニーデン市は、私の北海道の地元・北見市程の小さな町。シドニーからダニーデンに移り住んだときは、その町の小ささに何となく安心感を覚え、シドニーから比べると何もかも不自由(笑)に思えることすら新鮮でした。ダニーデンの人々はとても気さくで温かみを感じました。